

事業のポイント

地域資源 R & D と生産・加工・体験を提供する「次世代型農場」を東海大農学部跡地に設立、生業と暮らしを創出する地域マネジメント機関の創出、J A 等と連携し、田園版 M a a S や移動販売等の実施、耕作放棄地の集約化と農産物の生産・販売により、雇用の増加・経済活性化を図った。

基本情報

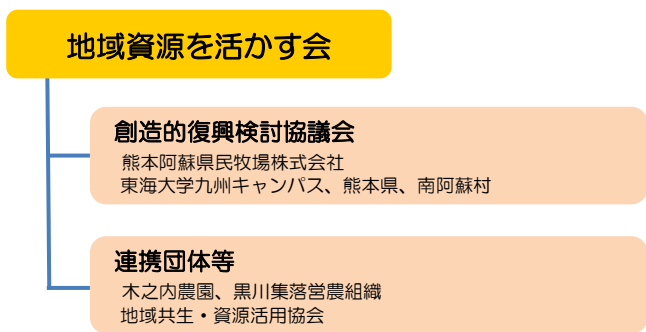
地域資源を活かす会 (熊本県阿蘇郡南阿蘇村)

【協議会構成員】
くまもと阿蘇県民牧場 (株)、黒川区自治会、黒川集落営農組織、有限会社木之内農園、東海大学熊本キャンパス及び同大教授 3 名

【実施地域】 南阿蘇村

【主産業】 農業
主要作物等：水稲、そば、トマト、肉用牛

体制図



取組の概要

取組内容 (R4~R6)

- 阿蘇の資源を活用した農産物の生産と販売**
- あか牛の繁殖・肥育
 - ヤギ・羊の飼育と販売
 - 野菜・果物などの生産と販売
 - 新たな品目の生産と販売
 - ジビエ

- 阿蘇の未利用資源を活用した事業**
- 研究開発部門で開発された技術や生産物の事業化

- 阿蘇の資源・未利用資源を活用した商品開発と製造小売**
- 食品の開発、食品の製造販売 (小売)
 - 飲食事業

- その他の事業**
- 地域づくり/教育サービス
 - 不動産/指定管理

- カーボンニュートラル/草原再生と経済活動を両立させる**
- 家畜を活用した草原再生と畜産振興研究
 - スマート農業研究
 - 阿蘇風土に適した農業研究

- 阿蘇資源を活用しSDGs を実践する技術・産業研究**
- 未利用資源開発研究
 - 低環境負荷/カーボンニュートラル農業の研究
 - 阿蘇の水・風・地熱・大地を活用した産業化研究
 - 人的資源の再分配研究

対策の効果

対策前(課題)

○熊本地震を契機に人口が急減するとともに、高齢化も急速に進行し、地域及び農業の維持が懸念される状況

○九州の水がめとされる阿蘇は、大規模なカルデラの草原環境下での雨水の浸透によりその機能を果たしているが、人口減少・高齢化の進展により環境維持に懸念

○熊本地震により甚大な被害を受け、現地での全面再開を断念した東海大学阿蘇実証フィールドの活用方策

対策後(効果)

○草原ゾーンや隣接するミュージアムゾーンでの地域資源を活用した飲食、物販、宿泊、体験などの提供に向けて、関係人口創出の取組みを進め、地域経済の活性化に寄与した。

○環境再生型農業の実証実験をはじめ、牧野管理としての採草や野焼きなどの活動を通じ、将来的な観光資源の維持と農業の持続性確保に向けた基盤づくりとなった。

○大学跡地を「研究ゾーン」として再生し、農業を起点にした地域課題解決や実証誘致に貢献。後継者育成や教育の接点整備、ワークスペースとして活用に取り組んだ。

熊本地震による人口の急減、東海大学農学部跡地を次世代型農場として機能させる計画

農山漁村振興交付金活動計画策定事業の活用

環境再生型農業実証実験の開始

次世代型農場整備の進捗発信および生産者の所得確保に向けた取組みへの注力

次世代型農場の事業開始に向けての準備を加速

2018年

事業取組のきっかけ

- 熊本地震で被害を受けた東海大学・阿蘇キャンパスの移転が決定
- 跡地を活用し熊本県／南阿蘇村／地域／農業者の協働でアカデミックかつ実業に貢献できる「次世代型農場」設立が決定



黒川地区ゾーニング

2022年

事業開始1年目（取組実績）

- 東海大学阿蘇実証フィールド、熊本県地震震災ミュージアム、次世代型農場の協力体制と事業の構築：協働関係及び役割分担など
- 農業を中心とした特産品の開発、防災・減災・災害生活に関するメニューの確定
- ブランディング・デザインに係るゾーニングとロゴマークの第1次（案）の策定



東海大学・阿蘇キャンパス

2023年

事業開始2年目（取組実績）

- SIP環境再生型農業研究会を開催
- 家畜を活用した阿蘇における草地保全と地域振興を柱とする実証実験の構想化
- 羊の飼育による環境再生型農業実証実験の開始



環境再生型農業実証実験

2024年

事業開始3年目（取組実績）

- あか牛の「母牛と肥育」の生産・販売に向けた仕組みや体制整備の構築
- 2025年度以降の「次世代型農場」整備に向けた地域の方々への説明会の実施
- 地域資源であるあか牛や米などの生産者の所得確保につながる食イベントの開催



次世代型農場の説明会を実施

2025年～ 今後の展望

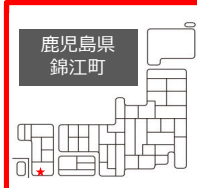
次世代型農場のスタート 順次整備を進める

- ・持続可能な農業モデルの構築を目指し、次世代型農場での技術導入と地域資源活用を推進
- ・関係人口の創出や地域資源の価値向上に取組み、観光と農業の両面で地域経済の活性化を図る
- ・地域の持続的発展に向けた基盤を形成するため、戦略的な施策を展開



次世代型農場のイメージ

12 錦江町の魅力を活用した経済循環が持続していく体系の構築（鹿児島県：錦江町）



事業のポイント

「地域資源を生かして消滅可能性都市から脱却し、将来世代が誇れる持続可能な魅力ある地域」を目指し、都市農村交流を促進することで、地元住民同士の連携を構築し、地域の魅力を活用した経済循環地域が持続する体系を構築した。

基本情報

錦江町地域活性化協議会 (鹿児島県肝属郡錦江町)

【協議会構成員】

錦江町、錦フロンティアコーポレート(株)、(株)三共建設、ワダツミ農園(株)、(有)新鮮倶楽部、クラシックぶどう浜田農園、味処さかえ、神川キャンプ場、花瀬オートキャンプ場、ゲストハウスよろっで、錦江町商工会、鹿児島県照葉樹の森稲尾岳ビジターセンター-鹿児島銀行大根占支店、鹿児島相互信用金庫大根占支店、鹿児島興業信用組合大根占支店

【実施地域】 錦江町

【主産業】 農業・畜産業

主要作物等：かんしょ、大根、茶、肉用牛、養豚、ブロイラー

体制図

錦江町地域活性化協議会

事務局

錦フロンティアコーポレート(株)、錦江町

宿泊受入、長期滞在促進

神川キャンプ場、花瀬オートキャンプ場、ゲストハウスよろっで

メニュー開発

味処さかえ、ワダツミ農園、ゲストハウスよろっで、錦フロンティアコーポレート(株)、(有)新鮮倶楽部

観光振興、情報発信、農地整備

ワダツミ農園(株)、商工会、クラシックぶどう浜田農園、稲尾岳ビジターセンター、三共建設

連携団体

(株)おおすみ観光未来会議、(株)麓匠、(株)和郷

取組の概要

取組内容 (R4~R6)



対策の効果

対策前(課題)

- 人口減少、少子高齢化による過疎化対策が求められる。
- 6次産業化や新たな視点による付加価値向上の工夫並びに担い手育成支援等
- 交通の地理的条件を克服するための町の魅力づくり

対策後(効果)

- 地方への移住・就農を考えている都市圏在住者に農業体験プログラムに参加してもらうことで、移住希望者が増加した。
- 地元のスーパーと連携し新たに開発した特産品の販売と、脱炭素型・環境再生型農業への取組を開始した。
- 外部にはまだあまり知られていない観光スポットを再度掘り起こして、それらを巡るツアー造成を行った。

事業全体のプロセス

生産年齢人口の減少、高齢化の進行、農業の担い手の高齢化

農山漁村振興交付金活動計画策定事業の活用

錦江町には意外と知られていない魅力があるがうまく発信できていない

錦江町の魅力の認知不足を解消するための実体験型イベントの実施が必要

2021年

事業取組のきっかけ

- 町の主要産業である農業や畜産業について、担い手の高齢化及び後継者不足の進行が顕著になった。
- 生産だけでなく6次産業化、担い手育成支援などが取り組むべき課題となった。
- マイナスの地理的条件（鹿児島空港や鹿児島市内から車で約2時間）を克服するための、町の魅力づくりが必要不可欠となった。



2022年

事業開始1年目（取組実績）

- 先進地視察研修、ワークショップ等を踏まえた地域活動計画の策定
- 各種体験プログラムの開発と受入体制の構築、HPやプロモーション動画などの作成
- お試し滞在イベントの提供による定住促進計画と開催

2023年

事業開始2年目（取組実績）

- 各種体験プログラム・企業研修等受入体制の追加、拡充
- 錦江町名物を使用した特産品開発、食事メニューの開発・試食会の開催
- 錦江町魅力発見イベントによる地域活動体験の計画と開催



協議会HP

2024年

事業開始3年目（取組実績）

- 3泊4日の農業体験プログラムを3回実施
↓
参加者の内1名が2025年4月から錦江町へ移住
(第1回：2024/11/23～26 ・第2回：2024/12/20～23 ・第3回：2025/2/14～17)
- 脱炭素型・環境再生型農業の取組開始（錦江町役場との共同実証も兼ねる）



有機栽培ダイコンセット
(特産品開発)

2025年～ 今後の展望

地域資源を活かした交流人口の増加とその後の移住促進を図る

- ・山と海に囲まれた自然豊かな錦江町で、移住者にワークライフバランスを実現してもらう
- ・観光スポット巡りツアーの実施と、新開発特産品のネット販売
- ・錦江町オリジナルの脱炭素型・環境再生型農法の確立



農業体験プログラム
(ジャガイモ種芋切り)